

## ・ テレビ放送の種類と特徴

テレビ放送は大きく3種類に分類されます。

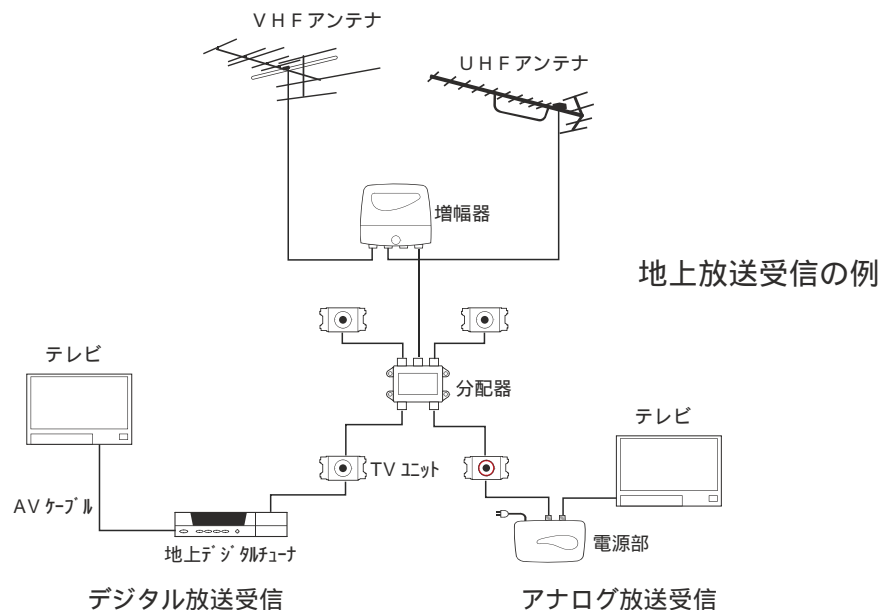
- ・ 地上(波)放送
- ・ 衛星放送
- ・ 有線放送(ケーブルテレビ)

### ・ 地上放送

地上放送には、VHF (Very High frequency : 超短波 : 周波数が90 ~ 222 MHz) 波による放送と、UHF (Ultra High frequency : 極超短波 : 周波数が222 ~ 770 MHz) による放送があります。大阪地区では生駒山の送信所から電波を発射されています。VHFの2, 4, 6, 8, 10, 12チャンネルを利用して、NHK総合, 毎日放送, 朝日放送, 関西テレビ, 読売テレビ, NHK教育を、UHFの19チャンネルを利用してテレビ大阪が放送されています。

受信するにはVHFとUHFの八木式アンテナを設置して電波を受信します。アナログ放送は一般的なテレビで視聴することができるので、最も普及している放送です。国の方策の「放送のデジタル化」ともない、2003年末にデジタル放送サービスが開始されました。地上デジタル放送を視聴するには、地上デジタルチューナをテレビに接続するか、チューナ内蔵のテレビで視聴することができます。

先に述べたデジタル化ともない、アナログ放送は2011年までに終了することが決定していますので、2011年以降も引き続き地上放送を視聴するには、それまでにデジタル対応の準備が必要になります。



## ・衛星放送

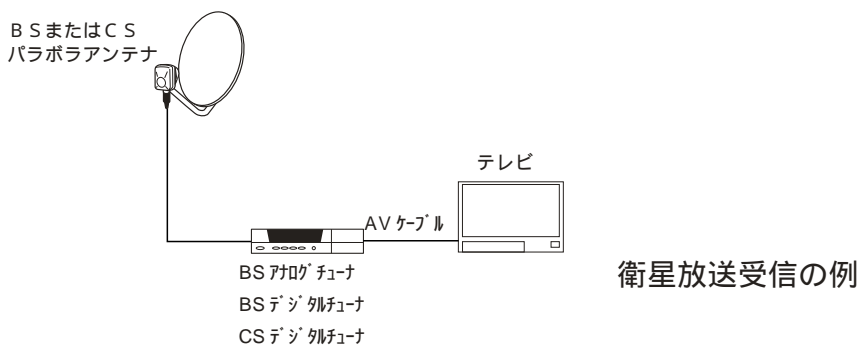
赤道上空約36,000kmの放送又は通信衛星からの12GHz帯の電波を利用した放送で、BS(Broadcasting Satellite:放送衛星)とCS(Communications Satellite:通信衛星)の2種類あります。

いずれの場合もパラボラアンテナで受信し、LNB(Low Noise Blockconverter)と呼ばれる周波数を変換する機器で1GHz帯の周波数(BS-IF・CS-IF帯)に変換して、BSまたはCSチューナをテレビに接続して視聴します。

BSはNHK(衛星第1・第2・ハイビジョン)とWOWOWのアナログ放送で始まり、2000年からはBS日本・BS朝日・BS-i・BSジャパン・BSフジ・スターチャンネルを加えたデジタル放送も始まりました。BSもまた、地上放送と同様にアナログ放送が2011年までに終了することが決定しています。

CSは、アナログ放送で一部の家庭で視聴されていましたが、1996年のパーフェクトTV!がデジタルで放送されて以来、徐々に知名度を上げ、現在ではスカイサービスと統合されたスカイパーフェクトTV!(通称 スカパー)としてサービスが提供されています。

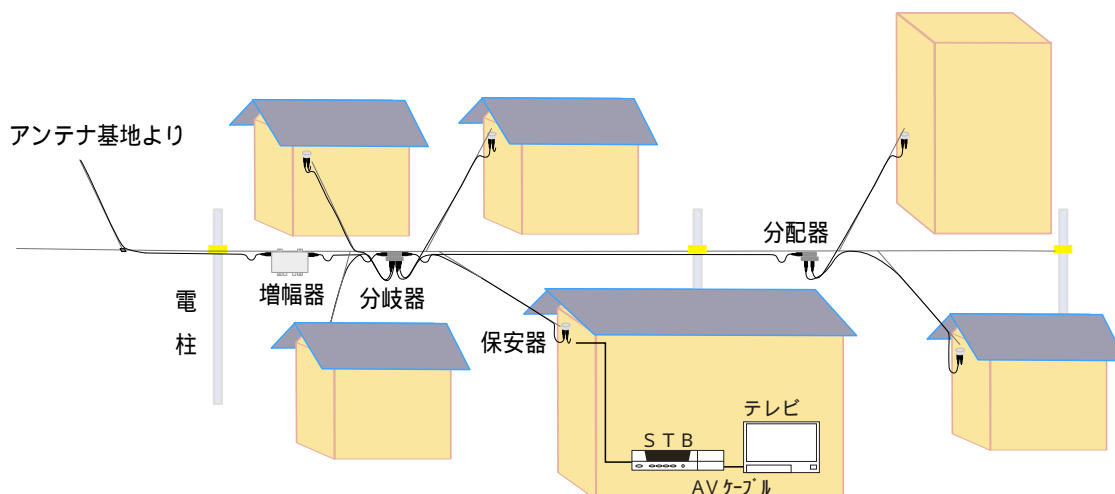
また、2002年からはCS110度放送が始まり、e2byスカパー!のサービスが提供されています。チャンネル数はスカパーに劣りますが、BSアンテナと共用出来るので、パラボラを2本設置せずに両方のサービスが受信出来るメリットがあります。



## ・有線放送(CATV)

もともと難視聴地域でもテレビが視聴できるように、受信可能な場所に共同アンテナを設置し、各住居へケーブルで配線するCATV(Community Antenna Tele-Vision / Common Antenna Tele-Vision)から始まり、現在では都市部の多チャンネルケーブルテレビ(Cable Tele-Vision)の方が有名になってきました。

ケーブルテレビ会社の所有するアンテナで受信し、同軸または光ファイバで電柱間のテレビ機器を通して各住居に配線され、ケーブルテレビ会社から支給されたS T B (Set Top Box : チューナ) をテレビに接続して視聴します。また、受信障害地域での地上波放送の再送信のみ視聴する場合は、S T B は不要です。



C A T Vによる受信の例

	メリット	デメリット
地上放送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビがあれば視聴できる (アナログ)。</li> <li>・高画質・高音質・データサービスが楽しめる (デジタル)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺環境の障害を受けやすい。</li> <li>・アナログ放送は2011年までにサービスを終了する予定。</li> </ul>
衛星放送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多チャンネル。(CS)</li> <li>・高画質・高音質・データサービスが楽しめる (デジタル)。</li> <li>・必要なチャンネルをチョイス出来るので視聴料もリーズナブル。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信号の伝送ロスが大きいため、機器の数も増える。</li> <li>・BSアナログ放送は2011年までにサービスを終了する予定。</li> </ul>
有線放送 (ケーブルテレビ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多チャンネルで安定した画像。</li> <li>・インターネットなどの放送以外の他のサービスも利用できる。</li> <li>・機器の管理をケーブル会社が行うので、増幅器などの機器の保守費用が不要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスエリアが限定され、幹線が近くないと利用できない。</li> <li>・視聴料が他に比べ高い。</li> </ul>